

様々な一過性遺伝子発現系の系統図

世界における生産レベルに達している一過性遺伝子発現系として、主なものは下記のとおりです (UniBio調べ)。

植物ウイルスベクター法 (植物内拡散=ウイルスの感染力)

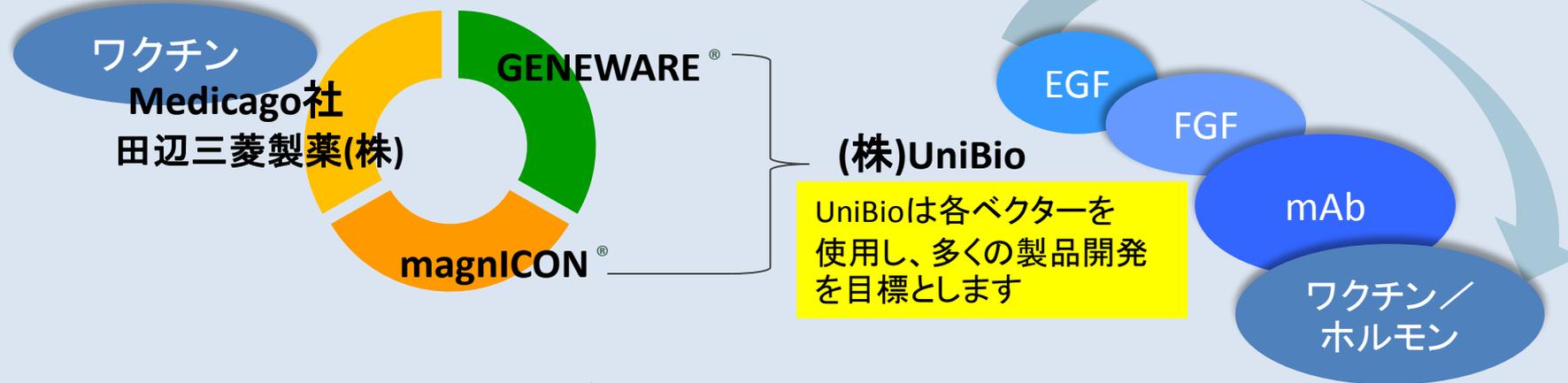
GENEWARE® (ベクター: TMV)

アグロインフェクション法 (植物内拡散=アグロバクテリウムの感染力)

magnICON® (ベクター: PVX、TMV)

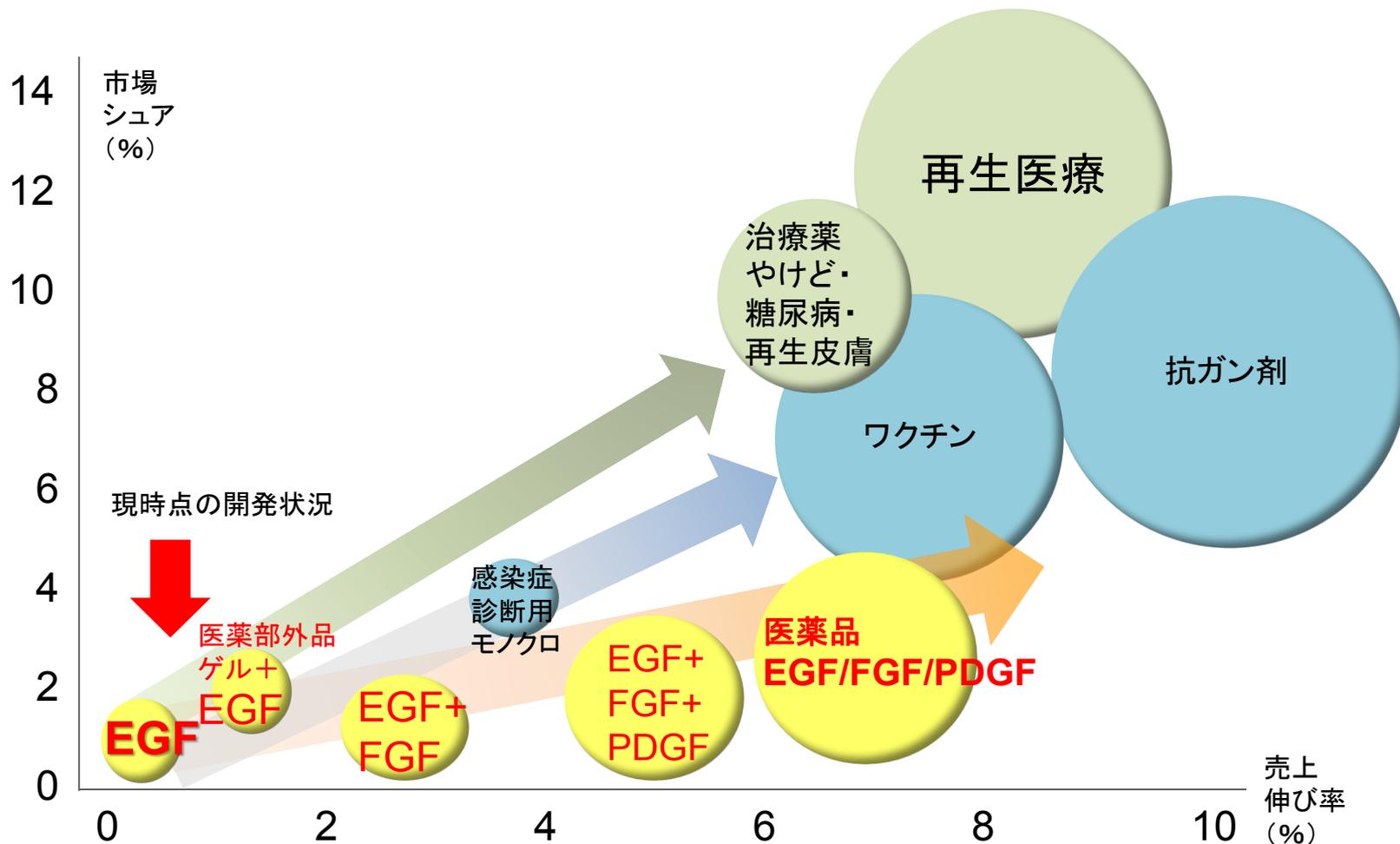
Medicago社使用技術 (ベクター: CPMV)

産生宿主は共通で
*Nicotiana
benthamiana*



産総研 (Plant Biotech Center) → 効率のよい一過性遺伝子発現系の新しいシステムを開発中

UniBioで確立するEGF発現技術を基に、様々な有用タンパク質の製品化を目指します。具体的には、EGFの事業化から始まり、その技術を応用して細胞増殖因子剤による再生医療関連製品関連、およびワクチン/抗がん剤分野等に展開することを目指します。



UniBioは製品開発を通し、他の地域企業と地域クラスターを形成し、植物バイオによる新しいコスメプロジェクトを新潟から起こすことも計画しています。

